

公式戦に向けての確認事項【部員用】

長野県高野連

※大会前に部員全体で確認して下さい

I. 事前に

- ①ベルトを締め、ユニフォームがすぐに出ないようにしておくこと
- ②肩のそり込み禁止
- ③グラブの締め紐は親指大の長さであること(失明防止。試合前の点検で長かった場合部長・監督の立ち会いのもとで切ってもらいます)
- ④用具の確認
 - ヘルメット、捕手用マスクは購入時に購入年月日が記入されたシールを貼ること。
 - バット(ひび割れ、変型、グリップテープのはがれ、SGマークの有無等)
 - ヘルメット(ひび割れ、緩衝材の傷み等有効3年) マスク(有効5年)、捕手用具(ひび割れ、スロートガード、ひも等)等
 - 28年度 「手甲ガードは使用不可。」
 - 29年度 「サングラスのメガネ枠はブラック、ネイビーまたはグレーとし、…メーカー名はメガネ枠と同色とする。」 ⇒ スポーツ眼鏡もサングラスの規定を準用。
 - 02年度 捕手用マスクはSGマークのないものは使用不可。

II. 球場入場及びベンチ入り

- ① 球場内に入場できるのは、「背番号のついた選手」と「リボンを付けたノック補助部員5名、記録員1名」のみとする。(ノック補助部員5名、記録員1名は部長先生からリボンを受け取り左胸に付けること)
- ② 記録員の服装は、制服、学生服、運動着またはユニフォームとするが、女子記録員の制服のスカート丈については責任教師と監督で指導する。当日、本部から注意を受けた場合には次試合からは制服の使用は不可とする。(学校名が背中に入っているTシャツは可)
- ③ 観客席入場の際には部員証を提示。(No、学校名、氏名はペン等で記入。鉛筆不可)。これ以外には入場料を払う。服装は制服、試合用ユニフォームまたは白の練習着、チームジャージとする。
- ④ ダッグアウト内には試合に使用するもの以外は持ち込まない。アップ会場で使用した道具は試合開始前に全て片付けてダッグアウト裏にまとめておく。アップ等で使用した、試合をするのに必要のない道具を試合中に使うことが絶対ないようにする。 ⇒ 改造バット・ラダー・ミニハードル・千羽鶴類・笛・携帯型の通信端末、テレビ・ラジオ等の受信装置すべて×
- ⑤ グランドコート(ジャージも可)は責任教師・監督・選手を含め2種類(色調が異なるものは別タイプとする)までとする。フード付き、ロングコートは不可。
- ⑥ 携帯電話・テレビ・ラジオなどの携帯型受信可能端末はダッグアウト裏でも使用不可とする。

A. 第一試合のチームは開始予定時刻1時間30分前よりグラウンドでのアップ可能 球場グラウンド内でのアップに関する注意事項

- ①白か黒のトレーニングシューズ(他の色は×、スパイク×)
- ②試合用背番号付きユニフォーム、試合用と同等のユニフォーム、白の練習用ユニフォーム着用(ベースボールシャツ等×)
- ③コーンやラダー等の使用×
- ④背番号の着いた選手のみ(ノック補助部員5名、ノッカーは×→ シートノックのみグラウンドに出ることができる、記録員×)
- ⑤トスバッティングは観客席に向かって打たないこと
- ⑥サイドノック可 監督・部長のノック可(選手はスパイク ×)【長野県独自ルール】
(ノッカー ×、記録員・ノック補助部員のボール渡し・ボール集め等 ×)
- ⑦ノック補助部員は用具点検を手伝うこと
バット・ヘルメット・レガース・マスク・カップ、リストサポーター等
→ 用具の点検を終えたら、シートノックに備え、すぐにヘルメットをかぶる。

B. 第二・三試合

- ①前のチームによる消毒が終わり、完全に出るまではダッグアウトに入らない。(用具はダッグアウト前グラウンドに置く)
- ②速やかにグラウンドに出てキャッチボールを行う(背番号をつけた選手のみ)。→ 両チームの遠投がセンター付近で重なり危険なので、先にノックを行う後攻チームが先に遠投を行うのがマナーです。ゆずられた後攻チームも短時間で切り上げる。互いに「Fの精神」で。
(入場後から約30分後を目処に試合開始)
- ③ノック補助部員は用具点検を手伝う。(Aの⑦参照)
特にキャッチャーは、キャッチボールに出る前に速やかに点検を受ける。
- ④開始予定時刻まで十分に時間のあるときはトスバッティングを可とする場合もあります。(役員から責任教師に連絡をします。この場合、入場はトレーニングシューズとし、スパイクはノックからとします。)

Ⅲ. オーダー交換(同時にボールボーイへの説明会も実施)

- ①第一試合:開始予定時刻の**40分前**。 第二・三試合:開始予定時刻の**1時間10分前**。
- ②責任教師、主将(トレーニングシューズで)で行う。ボールボーイ3名も同行する。
- ③オーダー用紙はできるだけ早く大会本部へ提出する。(照合の時間に手間がかかるため)
- ④オーダー用紙は選手資格証明書を元に作成する。とくに、選手の学年や漢字等の誤りに注意する。(選手が出場できないこともある)
主将の〇印、同姓のチェック(姓毎に記号を変えてもらえると良い)等を落としやすい。
- ⑤テーピングをしている選手も同行する。(テーピングの色はベージュのみ(白×))
リストサポーター以外にサポーター等を使用する選手(リストサポーターはベンチでの用具点検時)
- ⑥サングラス:責任教師が使用する現物を持参する。(同じ種類でも複数ある場合はすべて持参)
- ⑦トスは球審の先導に従う。握手をせずに、「ジャンケンポン」で行う。

Ⅳ. 応援リーダー打ち合わせ

- ①試合開始予定時刻の**50分前**に指定された場所で行う。
- ②応援責任生徒(リーダー)と応援責任者:応援責任者の顧問がいない場合は保護者会等に責任者を事前に依頼する。

V. シートノック

- ①選手はスパイクで行う。(第一試合:スパイクを履くのはシートノックから)
 - ②ノック補助部員5名は自チームのヘルメットを着用し、トレーニングシューズで行う。
また、背番号のついている選手でもボール渡しを専門にするときは内・外野ともにヘルメットを着用。
 - ③フェアグラウンド内には
 - ・背番号のついた選手
 - ・1塁で捕球のみを行うノック補助部員
 - ・外野ノック時、外野フェンス側でボール集めを行うノック補助部員
 - ④捕手がシートノックに出る学校はブルペンでノック補助部員が投球を受けることができる。
シートノック時以外はノック補助部員がブルペンで受けてはいけない。
 - ⑤「あと2分」からベンチ前で先攻チームがグラウンドへ出てキャッチボールをしても良い。【長野県独自ルール】
(素振り等は×)
- *シートノック終了後*
- ・控え室の荷物をダッグアウト裏通路に移動させる。
 - ・ノック補助部員5名はグラウンド整備を手伝う。
 - ・場内放送「(ノック終了)→オーダー発表→【大会本部からのお知らせ放送】→スタンドへの挨拶(発声は主将のみ)」→試合開始 の順とする。
- ⑥1, 2回戦ではシートノックの始まりから校歌演奏を行う。歌ったり、応援をしたりしないように。

V. 試合

- ①グラウンドでプレーする選手、コーチ以外はマスク着用を原則とする。熱中症予防で外すことは仕方が無いが、マスク無しで声を出すことは極力しないようにする。
- ②マスク以外でもコロナウイルス感染症拡大防止に向けた行動を徹底する。
 - ・守備時にマウンド等が集まるとき、マスクが無ければグラブ等で口を隠す。
 - ・飲み物の回し飲みは絶対しない。(各自飲料は持参する)
 - ・整列時、隣の人と片手を伸ばした程度の距離をとる。
- ③審判が出てきたらベンチ前に整列をする。(早く出過ぎないように)
- ④開始時の挨拶は速やかに両軍そろえて行う。(礼のみ、声を出さない)
- ⑤全力疾走を心がける。
- ⑥攻撃前のグラウンドでのミーティング円陣(間隔を取る)には先頭打者、次打者、1・3塁コーチは加わらない。
- ⑦ネクストバッターがピッチャーであろうと、ネクストバッターズサークルには本人が入る。
また、危険回避のため投球から目を離すことなく、ファールボール等からすぐ避けられる態勢をとる。
⇒ 投球に合わせてスイングすることは禁止。
- ⑧攻守交代時は必ず投手板にボールを置く。マウンド付近に無造作に転がすことのないように。
また、投手用ロジンは毎回持ち帰る。(ロジンは各チーム1つ)
- ⑨1・3塁のコーチ、バット引き担当、レッグ・エルボーガードを受け取りに行く担当はヘルメットを着用する。
- ⑩礼の省略 ボックスに入るとき 投手が球審からボールを受け取るとき
5回のグラウンド整備が終了したときのお礼の挨拶、伝令に出たとき等
- ⑪必要な時以外はグラウンドに出ない。守備開始時の声掛けもベンチ前付近で行う。(出過ぎないこと)
- ⑫ベンチ前でのハイタッチ(ロータッチも)の禁止。(ベンチ内に速やかに入る)
- ⑬相手チーム・スタンドに対してのガッツポーズは禁止。
- ⑭スタンドのコーチ・部員・先輩等と話をしてはいけない。
- ⑮攻守交代時、捕手の防具の装着はダートサークル付近で(カップ装着のためにはベンチに戻る)、控え選手等が協力する。(ベンチ内不可)
ランナーもベンチに戻らずに控え選手がグラブ・帽子・飲料等を届ける。(飲み残しをグラウンドに捨てない)
- ⑯上記⑮の場合も含めて、試合中出場選手および控え選手全員が十分な水分補給をする。

* ボールボーイ *

- ・自身の給水をしっかり行う。特に外野のボールボーイは注意する。
- ・グラウンド内は全力疾走を基本とする。
- ・ボールボーイが球審にボールを渡すとき、ヘルメットをとらない。
- ・5回終了時のグラウンド整備を手伝う。
- ・マウンドは整備をしない。

VI. 試合終了後

- ①勝利校の校歌演奏が行われる場合、勝利チームはホームベース前に、敗戦チームは自チームダッグアウト前に距離をとって一列で整列する。
- ②スタンドへの挨拶(発声は主将のみ)は校歌演奏終了後とし、次のチームのために速やかにベンチ内の消毒をし、ベンチを空ける。
- ②インタビュー用紙を受け取り、記載された者はスパイクを履き替え、責任教師先導でユニフォームのまま取材エリアに行く。(監督でも可)自分の用具等は仲間に託す。
- ③球場で渡されたりボンは責任教師に返却する。
- ④最終試合のチームはベンチ・ブルペンの清掃・整備を行う(予選会、県大会勝利チーム)。
- ⑤球場から出るとき、球場ごとに所定の場所で更衣が可能である。制服、チームジャージ、学校指定の体育着への更衣のみ可。
- ⑥食事・休憩等でスタンド野球場の周囲を利用するとき、決められた服装で行動する。
アンダーシャツだけの格好 × 背中に文字の入ったベースボールシャツ姿 ×
(最近、だらしない格好が目立つようになってきた)